

議長・副議長就任記者会見の概要

日 時：令和5年5月16日(火)

午前11時30分～正午

場 所：議長応接室



新議長の就任挨拶

(濱砂議長)

本日議長に就任いたしました、西都市・西米良村選出の濱砂です。よろしくお願いいたします。本県は人口減少問題やコロナの長期化、物価高・原油高等、課題が山積しております。このような中で、県民が安全で安心できる環境づくりを執行部とともに連携を図りながら取り組んで参りたいと思います。

新副議長の就任挨拶

(日高副議長)

同じく、本日副議長に就任いたしました、日向市選出の日高博之です。どうぞよろしくお願いいたします。議長からもあったとおり、本県の課題は、人口減少やコロナの影響などにより疲弊した地域経済の回復、活性化であろうと思っています。また、発信力で議会の存在感を高め県民へ開かれた議会を目指していくことも重要な課題だと思っています。今後とも厳しい状況が続くと思われませんが、濱砂議長をしっかりとお支えしながら円滑な議会運営に努め、県勢発展に向け、精一杯尽力して参りたいと思います。

質疑応答

【宮崎日日新聞】

県政の最重要課題は何であり、それに対してどのような方策が求められていると思いますか。

(濱砂議長)

課題がたくさんある中で、少子高齢化・人口減少・過疎対策が最重要課題だと思っております。県内人口約104万人のうち、約64%が宮崎市や都城市、延岡市に集中しています。一方で、戦後急激に人口減少し、人口1万人未満の町村は10もあるので、これらの対策についてしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

(日高副議長)

重要な課題は多々ありますが、今回はコロナ禍からの復活を成し遂げなければならないと思います。スピーディーにできるかは、この6月にどのような予算が出てくるかが非常に重要な位置付けになるかと思っています。燃油高・物価高、人口減少等、様々な問題がありますが、同じ事をやるのでは始まらない。前例主義というのを改め、新しいことにチャレンジできるような県政を我々がフォローしていくことも重要ではないかなと思っています。今年どれだけ回復していくのか、河野県政にとっても大事な1年になるかと考えています。

【宮日新聞】

河野県政が4期目に入り、長期県政になっており、対等な立場で行っていくという話もありましたが、具体的にはどのような姿を描いていますか。

(濱砂議長)

河野県政4期目ですが、是々非々で対応していきたいと思っています。

議会の権限としては、主に予算の承認と決算の認定であり、特に予算の承認については、経済効果を見通す必要があります。予算執行について、各委員会ですっきりと確認をしながら、必要なものについて検討していただきたいと考えています。

特に、特別委員会では、県への提言をまとめあげるものであるため、しっかりと議論していただいて、県民の納得のいく方向性を示していただきたいと考えています。

【UMK】

少子高齢化もあって、年齢構成が変わってくるなかで、一人区の見直しについてどのように考えているかお聞きします。

(濱砂議長)

大変重要な問題だと思っています。以前は、45人体制から39人体制となり、6人の議員削減がありました。削減した地域のほとんどは過疎地域です。削減された過疎地域の県民の声が届きにくくなる可能性があるということを心配しています。九州の中でも少

ない39人の少数精鋭で取り組んでますが、自分の選挙区以外でも一緒になって取り組んでいく姿勢が必要だと思っております。

【MRT】

先ほどの質問と重複しますが、改めて、議長という立場で県政運営に関わっていきたい、特に取り組みたいことについてお聞かせください。

(濱砂議長)

予算の執行のあり方について、これまでと同じやり方ではいけないと思います。もう一度考えを改めて、各委員会ですっかりと練って議論をしていただいて、お互いが丁々発止やり合い、認識し合って実行していくことが必要だと思います。

また、議会が決算を不認定とした場合でも、すでに行われた予算執行の効力には、何ら影響しないと解されているので、予算執行の段階ですっかりと議論すべきと考えています。

【UMK】

今の質問に関連して、同じやり方ではいけないということは、先ほどの話と合わせると具体的には物価高騰対策や少子化対策のことという解釈でよろしいですか。

(濱砂議長)

そうですね。今までは、臨時会を開かずに専決処分をしていた時期もありましたが、国からの交付金の使い方について、委員会等ですっかりと練って、県民の納得のいくように、県民の意見を反映させた上で執行に当たっていただきたいと思っております。

【NHK】

副議長に伺います。先ほど、前例主義を改めないといけないというお話がありましたが、執行部はもちろんだと思いますが、逆に議会としてはどのようなことにチャレンジしていくのか考えがありましたら教えてください。

(日高副議長)

地方創生推進交付金など、使い道の新たな発想が必要になると思いますが、歳入についても考えていかなければならないと思います。昨年度、総務政策常任委員会の委員長をしておりましたが、例えば、宮崎県は企業版ふるさと納税を財源として、奨学金の返還を支援するといった若者の雇用を支える良い事業もあるので、そのような事業を県政の最重要施策とするなど、若者に手厚い県と言われるように議会側から提案を行っていくというのも必要だと考えております。

【NHK】

河野県政が4期目に入っている中で、その評価を伺います。

(濱砂議長)

河野県政は手堅く行ってきており、十分評価はしていますが、4期目に当たってさらに力を入れて取り組んでいただきたい。宮崎県の進む方向性など、他県との違いを発掘していただきたいと思っています。これまでの取組でいいものはいいものとして引き続き取り組んでいただき、宮崎県の新たなカラーを出していただきたいという気持ちであります。

(日高副議長)

宮崎県の強みである食やスポーツ、農業を伝えるだけでなく、しっかりと相手に伝わるまで情報発信を行ってほしいと思っています。これまでの河野県政の良い部分は生かしつつ、宮崎の未来像というのをしっかりと示していくことが重要になるかと思っています。

【読売新聞】

今、情報発信というお話がありましたが、県議選は投票率が約40%で、県議選だけでなく地方選挙自体の投票率が下がっていると思います。そのことについての情報発信や県民との接点はどのようにしていくべきだと考えていますか。

(濱砂議長)

今回の県議会議員選挙では、無投票区が3選挙区でした。前回は14選挙区中7選挙区もあり、そのときの情勢に応じて変わるものだと思いますが、一人区で新たに立候補するという選択を決断することが難しいのだろうと思います。

また、投票率を上げるために、議員の魅力を高め、議会のあり方を全体で考えていくべきではないかなと思っています。

(日高副議長)

統一地方選においても、選挙カーなどによる地域の接点はすごく深いと思っています。しかしながら、投票率は微増に留まるのが現実でございました。ここの部分について、県の政策もですが、議会づくりをどうしていくのかという発信のあり方も大きく関わってくるかと思っています。議会も大学に出向き講座を行ったり、インターンシップの受け入れを行い、若者に関心を持っていただく取組を行っていますので、継続して続けていく必要があるかと思っています。

また、地域によっては、投票に行きたくても行けないという声も聞こえてきました。宮崎大学に投票所を設けたように、投票したいという意識のある方のためにも次の手を考えていかなければならないと思っています。

【西日本新聞】

本日、小林市議会で女性が議長になりましたが、宮崎県議会では女性が議長になるのはあとどのくらいの年月が必要になるか。また、そのためにはどんな条件が必要になるかお考えをお聞かせください。

(濱砂議長)

小林市の議長の話が出ましたとおり、女性が議長になることはいいことだと思っています。議会によって違うと思いますが、議長になるにあたってそれなりの年数は必要になることもあろうかと思っています。ただし、議長になれるような資質がある人は、男女平等に良い意味で競争していくべきだと思います。

【西日本新聞】

現状からみて、当選回数等、あとどれくらい年月が必要だと思いますか。

(濱砂議長)

我々の会派でいうと、現在女性議員がおりませんので、議員のなり手が増えていって、その中で実力を発揮してもらいたい。その中で、認められれば、当然女性議長は誕生すると思っています。

(日高副議長)

女性の議長ということですが、なるべき能力、資質があればいつでもチャレンジができる状況ではあります。ただ、議長になりたいという方々の声をまだ聞いていない状況でもありますし、私たちがその時期を決めるということを申し上げることはできないと思っています。

【西日本新聞】

県庁の女性幹部の登用も少ないと感じていますが、そういった事に対して働きかけていくことは考えていますか。

(濱砂議長)

男性であろうと女性であろうと、当然に能力がある人が登用されるべきだと思いますので、私どもの方からは、それ以上申し上げることはございません。

(日高副議長)

女性登用については、本当に重要な課題だと思っていますので、議会だけでなく社会全体で女性の登用を進めていくような社会をつくり上げていくことが重要だと思っています。